

# KITA ニュース

KITA  
Kitakyushu  
International  
Techno-cooperative  
Association

NO.46号  
January 2017

## 目次

- 2頁 理事長年頭あいさつ
- 3頁 H29年方針・研修員受入れ実績
- 4頁 研修部・技術協力部のH29年運営方針
- 5頁 H28年度上期実施の研修コース紹介
- 7頁 帰国研修員の活躍紹介
- 9頁 海外活動状況
- 10頁 KMEの活動紹介
- 11頁 国際親善、人事異動
- 12頁 環境省環境調査研修所開所式



## ～環境省環境調査研修所開所式～

10月24日、国際村交流センターで環境省環境調査研修所開所式が行われました。開所式は、環境省総合環境政策局長で環境調査研修所長を兼務される奥主局長はじめ福岡県の大曲副知事、北九州市の梅本副市長、そしてKITAの古野理事長が参列し、報道機関等関係者がカメラを構える中で環境省の担当官の司会のもと滞りなく行われました。

詳細は本文(12頁)を参照下さい。

## <平成29年> 理事長年頭あいさつ



北九州国際技術協力協会 理事長 古野 英樹

新年あけましておめでとうございます。

アメリカは個性豊かなトランプ大統領政権が新年早々にスタートします。ナショナリズムが世界に拡大するのか、世界のグローバル化の潮流に大きな変化が生じるのか、自由貿易の流れに変化が生じるのか、いろんな予測が行われているようですが、円滑な日米関係が維持されることを、まずは願いたいところです。ところで、KITAはH23年度からスタートした下記の2点の中長期的な視点のもとでの体質改革を続けて参りました。

### KITA中長期指針

1. KITA財産づくり
2. 「KITAらしさ」と「北九州立地の強み」追求

また、H27年度から10年計画のマスタープランを計画し、H28年度からはその活動を本格化してまいりました。中長期指針を基本にこのマスタープランを踏まえてH28年度はH27年度に引き続き下記の4つの事業方針を推進してきたところです。そして、下記の通りH28年度分の計画はほぼ達成されつつあります。

### 1. KITAブランド実現に向けた事業力強化・充実

- (1)研修ブランド・現地ニーズ把握からアウトカムフォローまでの確実な遂行
  - ①現地ニーズの総合的把握
  - ②課題解決と効果的な知識・情報・経験の提供
  - ③研修参加国と研修協力企業とのWin-Winの関係構築
  - ④研修成果(アウトカム)の確実なフォロー
  - ⑤海外研修員ネットワークの一層の活用

これらのテーマを追求した結果として、JICA草の根事業(ベトナムTAC)を活用したKITA初めての企画が実現しつつある。ベトナム中小企業センター(TAC)の中小企業向け研修実施能力向上のためにJICA草の根事業のシステムを活用する方式をJICAに提案し、その採否結果の朗報を待っているところである。

- (2)技術協力ブランド・北九州中小企業のグローバル展開

- ①北九州中小企業の海外進出の支援(コーディネーター)

KITAとして初めての本格的なコンサルティング

提案となった海外公的機関への技術協力「JICA中小企業海外展開支援事業」提案が、H28年1月にJICAに採択された。契約手続きを同年6月に終了し、現在、今回のテーマとなっている「案件化調査」を順調に推進しているところである。

- ②下記機関との海外進出のための積極的な連携

- ・北九州市
- ・国際協力機構(JICA)
- ・日本貿易振興機構(JETRO)
- ・特に、北九州市、JICAとの連携は活発に推進している。

- ③海外セミナー、フォーラムなどによる積極的な海外認知度アップ活動

海外活動の都度、認知度活動に努め、認知度は確実に拡大している。

- ④海外研修員ネットワークの一層の活用

ベトナムを中心に個々の事業ごとにネットワークを拡大しつつある。

### 2. KITAマスタープラン作成とその遂行

- (1)KITAマスタープラン(10年計画)の完成

- ・KITAブランド実現計画の具体化
- 北九州市説明、KITA機関決定の手続きを終え、ブランド実現計画の具体化に着手した。

- (2)KITAマスタープラン推進開始

- ・KITAブランド具現化に着手
- ブランド具現化に着手し本格化している。

### 3. 事業運営効率化の一層の推進

- (1)組織・業務分担の明確化と組織間連携の強化

- ・管理業務効率化とコスト抑制
- 恒常的なテーマとしての活動を継続している。

- (2)システムインフラの有効活用促進と機能充実

- ・日常的な取り組み課題として、日々進展させている。

### 4. 公益財団法人運営の確立・透明性・公正性及び情報公開の徹底

- (1)保護情報の厳守と情報公開の徹底

- ・習慣が定着し、一段の徹底を推進中。

- (2)内閣府、北九州市の外部監査対応関連ドキュメント整備

- ・内閣府監査を含めルール化されている監査対応の整備を完了した。

以上のように、ほぼ計画通りに成果は得られつつあるところです。

H28年度も北九州市、JICA九州などとの連携強化に努めた1年であり、昨年度に引き続きこの強い連携関係が海外活動の活発化を促進致しました。そして、中長期指針の成果のひとつとしての「KITAブランド」実現化をH28年度には軌道に乗せることができました。

この「KITAブランド」は「KITAマスタープラン」の中核となるコンセプトであり、この「KITAブランド実現」を軸にした「KITAマスタープラン」のH36年度における完結を目指し、右記に述べるテーマをH29年度方針として設定いたします。

## H29年度方針

### 1. KITAブランド実現に向けた事業力強化・充実

(1)研修ブランド・現地ニーズ把握からアウトカムフォローまでの確実な遂行

①研修のさらなる充実

- a. 研修員ニーズの的確な把握と確実なソリューションの提供
- b. 多様かつ専門性の深化への対応と更なる研修先開発・充実

②新たな研修コース受注に向けた仕組みの構築

- a. 研修後の研修員フォローの充実および現地ニーズの確実な把握
- b. 新たな研修ニーズの掘り起こしと研修課題抽出の継続推進
- c. 有償研修の構築

(2)技術協力ブランド・公益目的事業継続・北九州中小企業のグローバル展開と収益事業の開拓

①公益目的事業の継続推進

②「事業開発センター」の技術協力部内設置による収益事業開発

③アジア低炭素化センターとの連携

④メンテナンス研修事業の強化・メンテナンス技術研究会(KME)の活用

### 2. 事業運営効率化の一層の推進

(1)組織・業務分担の明確化と組織間連携の強化・管理業務効率化とコスト抑制

(2)システムインフラの有効活用促進と機能充実

### 3. 公益財団法人運営の確立・透明性・公正性及び情報公開の徹底

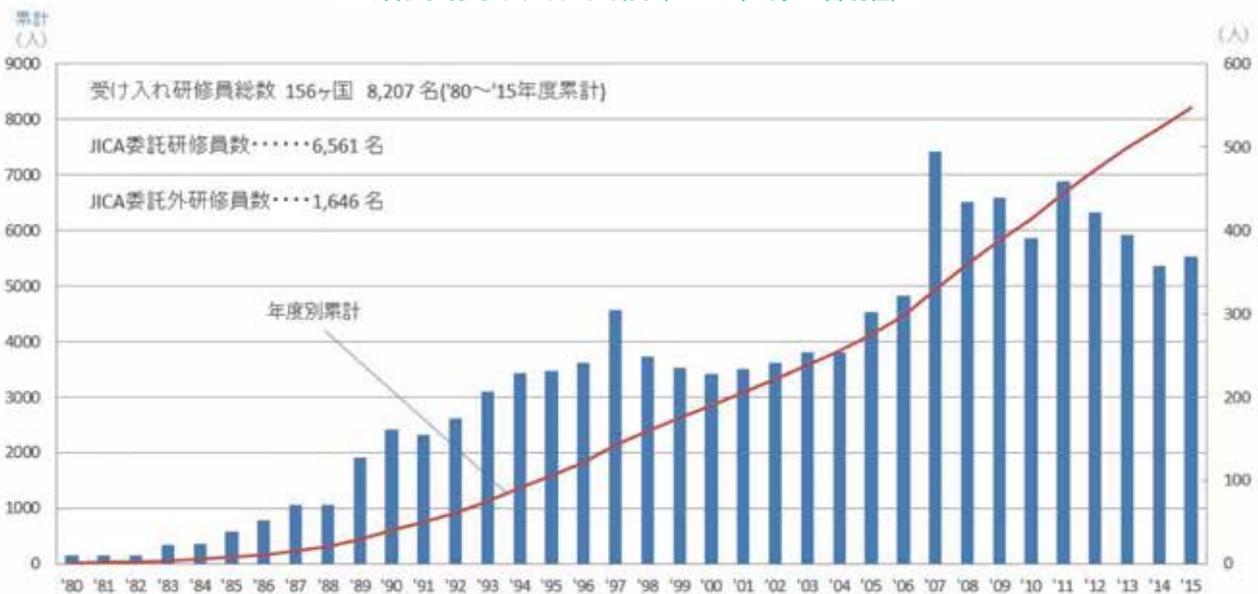
(1)保護情報の厳守と情報公開の徹底

(2)内閣府、北九州市の外部監査対応関連ドキュメント整備

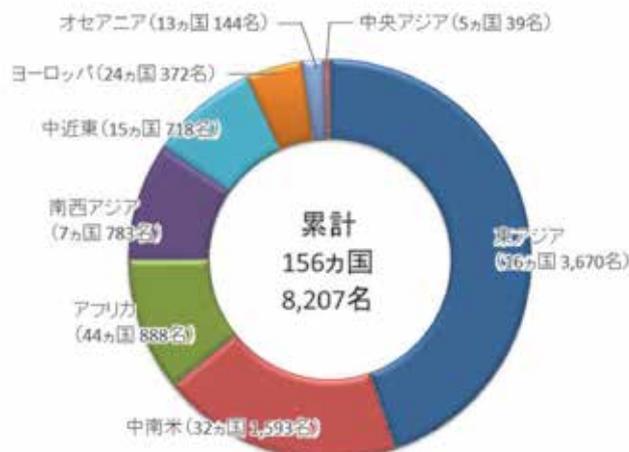
(3)公益財団法人としての日常マナーの確立

H28年度本格化した「KITAマスタープラン」を着実に推進するとともに、様々な変動状況も適切に吸収することも怠ることなくH36年度の完結に向けて力強く推進する所存であります。

## 研修員受け入れ実績 (2016年3月31日現在)



### ●地域別研修員受け入れ実績 (2016年3月31日現在)



## 研修部

研修部長 寺田 雄一



皆さま、新年明けましておめでとうございます。昨年も熊本の大地震、英国のEU離脱、リオデジャネイロ・オリンピックでの日本選手団の頑張り、米国大統領選挙でのトランプ氏の勝利、等々国内外ともに色々なことが起きた年でした。また、日本列島を縦断する台風が多かったのも記憶に新しいところです。

さて、私ども研修部も昨年は『マスタープランの初年度』ということで、まだまだヨチヨチ歩きという感じで動き始めたに過ぎませんが、従来の“JICA研修の受託機関”から“情報発信機関”への転換に向けて色々な仕掛をしてきた年でした。IAS (Issue Analysis Sheet) を活用した課題解決法の研修への浸透・定着化、TASKを中心としたアクションプランの作成指導、研修ニーズの確認と研修後フォロー充実のための南米調査(パラグアイ、アルゼンチン)、ほかメキシコ、中米、アフリカの3件のJICAフォローアップに同行、有償研修構築の手掛かりとしてJICA草の根事業の案件創出、等々が挙げられると思います。

今年は、“KITAブランド力強化に向けて”一層の事業力強化・充実を図るべく以下の点に注力したいと思います。ご協力方、宜しくお願ひ申し上げます。

(1) 研修事業の更なる充実

- \* 研修員ニーズの的確な把握と確実なソリューションの提供
- \* 多様かつ専門性の深化に対応した更なる研修先の開発と充実

(2) 新たな研修コース受注に向けた仕組みの構築

- \* 研修後の研修員フォローの充実および現地ニーズの確実な把握
- \* 新たな研修ニーズの掘り起こしと研修課題の抽出
- \* 有償研修の構築に向けた準備の推進

今年の皆さまのご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

## 技術協力部

技術協力部長 麻原 伴治



平成28年はマスタープラン実行初年度として、業務構造改革・体制改革に取り組んできました。その結果、目指していたコンサルティング案件の初めての受注、北九州メンテナンス技術研究会(KME)のKITAへの再編入など、第一歩を着実に踏み出すことができました。平成29年は、「KITAの基本的役割である公益目的事業」と「新事業開発」の2本柱を、関係諸部門と連携しながらバランスよく進めていきたいと考えています。

(1) 公益目的事業の推進

- \* 北九州市関連の各種情報収集、調査、講演
- \* 北九州市内企業の海外事業展開支援
- \* 北九州市が推進する環境国際協力などへの技術支援、技術者派遣

いずれもこれまで通り、北九州市関係部門等と緊密に連携を取って進めていきます。

(2) 新事業開発

- \* コンサルティング案件の完遂と新規案件の開拓、受注
- \* 各種研修の開拓、受注(日中都市間連携大気環境研修、環境技術研修所委託研修など)
- \* 北九州メンテナンス技術研究会活動の活性化、事業拡大

新しく取り組んでいるコンサルティング案件では、その実行を通じて多くのノウハウを得ることが出来ました。同時に実行にはプロジェクト遂行能力に加えて、非常に高度の情報収集能力、報告書の作成能力等が要求されることがわかりました。KITAの陣容でこれが継続していけるか、コンサルティング専門企業との連携も含めて、今年の実行の中で模索していきたいと考えています。

## H28年度前期 研修コース ダイジェスト版

H28年度上期に実施された受入れ  
研修コース。  
(2016年4/1～9/30にスタートした  
研修コースの一覧)



### 1) 研修コース名

アフリカ地域:起業家育成・中小零細企業活性化

### 2) 受入れ期間

平成28年5月14日～平成28年6月18日

### 3) コースリーダー

小杉 允

研修員のみなさん、講義だけでなく工場見学や研修旅行と大変お疲れ様でした。たくさんの時間を一緒に過ごし、皆さんの国を良くしたいという前向きな思いと好奇心に富む行動力に大変好感を覚えました。「百聞は一見にしかず」といいます。日本で見たことをヒントにして中小零細企業の活性化を目指して下さい。それぞれの国での今後の活躍を期待しています。



### 1) 研修コース名

水環境行政

### 2) 受入れ期間

平成28年5月8日～平成28年6月29日

### 3) コースリーダー

貴戸 東

研修員の皆さん、長い間の研修お疲れ様でした。慣れない土地でのハードなスケジュールに疲れたことと思います。皆さんは、この研修で多くのことを学んだ事と思います。この研修の結果が、帰国後の皆さんの活動にお役に立つことを心より願っております。お元気で活躍してください。



### 1) 研修コース名

中南米:中小企業・地場産業活性化(B)

### 2) 受入れ期間

平成28年6月7日～平成28年7月8日

### 3) コースリーダー

河崎 克彦

研修員の皆さん、研修お疲れ様でした。慣れない土地でのハードなスケジュールに疲れたことと思います。この研修の結果が、帰国後の皆さんの活動にお役に立つことを心より願っております。お元気で活躍してください。



- 1) 研修コース名  
輸出振興／マーケティング戦略 (B)
- 2) 受入れ期間  
平成28年6月25日～平成28年7月30日
- 3) コースリーダー  
中島 康紀

この1カ月の研修で、売るノウハウと良いものづくりの両者を実践的に融合していくことを体得できたのではないかと思います。ぜひとも、自国の文化や歴史背景を反映させたユニークかつ高品質の商品を発掘して、輸出チャンピオン商品に育てられるよう期待しています。



- 1) 研修コース名  
省エネルギー政策立案 (B)
- 2) 受入れ期間  
平成28年7月3日～平成28年8月6日
- 3) コースリーダー  
川口 健二

高温多湿の5週間でしたが、日本での生活は如何でしたか？多様な課題を持って研修に参加した皆さんでしたが、その目的は達成されましたか？この研修で得た情報や日本での生活経験を、今後の国のエネルギー効率の改善や皆さんの仕事の質の向上に少しでも役立てていただくことを期待しています。  
アクションプランの着実な実行をお願いします。



- 1) 研修コース名  
廃棄物管理技術(応用、技術編) (A)
- 2) 受入れ期間  
平成28年7月10日～平成28年9月10日
- 3) コースリーダー  
指輪 勤

最後まで研修にいただけたでしょうか？日本滞在中に知識が豊富になり、より大きな能力を得、これから後に直面する問題に立ち向かう能力と選択肢を手に入れることでしょうか。もし何かアドバイスや相談したいことがありましたら、借金の話や男女問題の話でなければいつでも手助けします。万事うまくいくことを祈ります。



- 1) 研修コース名  
掘削マネージメント
- 2) 受入れ期間  
平成28年7月5日～平成28年8月10日
- 3) コースリーダー  
高崎 義則

研修修了おめでとうございます。研修員全員が元気で当初目標の通りに研修を終えられたことをうれしく思います。日本の最先端の掘削現場での研修や最新技術を盛り込んだ講義を通して自国の地熱資源開発強化に活かされることを願っています。現状をよく把握し、目標とその達成のための戦略を明確に定め、それらを着実に実行していただきます。皆さんのご健康とますますのご活躍を祈念しています。



**1) 研修コース名**

再生可能エネルギー導入計画 (A)

**2) 受入れ期間**

平成28年7月10日～平成28年8月20日

**3) コースリーダー**

川崎 順一

6週間の研修期間でしたが、日本の一番暑い時期で屋外での実習やメガソーラの見学等、かなりハードな日程でしたが、皆さんのチームワークが素晴らしく、有意義な時間を共有できたことに感謝します。また、最初にお願ひした「時間厳守」についてもいろいろな場面で完璧に対応していただきました。この研修で得られたものが皆さん方の課題解決の一助となり今後の皆さん方の発展につながることを心よりお祈りいたします。



**1) 研修コース名**

青年研修アフリカ／再生可能エネルギーコース

**2) 受入れ期間**

平成28年7月24日～平成28年8月10日

**3) コースリーダー**

矢頭 昭治

研修お疲れ様でした。短期間でしたが日本の再生可能エネルギーについて多くを学びました。自国の発展の為に日本で学んだ知識と技術を活用して成果を出す為の改善活動をして下さい。日本での経験は必ずや皆様の仕事の一助に役立つと確信しています。今後のご活躍を期待致します。



**1) 研修コース名**

高効率クリーン火力発電の推進 (A)

**2) 受入れ期間**

平成28年8月21日～平成28年9月10日

**3) コースリーダー**

藤井 岱輔

この研修プログラムには5ヶ国から8名が参加しましたが、皆さんが楽しく良い経験ができたなら大変うれしく思います。

世界が平和で繁栄する未来であることと、日本と皆様の国の有効関係が永遠に続くことを願います。



**1) 研修コース名**

アフリカ：実践的電気・電子技術者育成

**2) 受入れ期間**

平成28年8月20日～平成28年10月15日

**3) コースリーダー**

富田 正昭

研修員の皆さま、長期にわたる研修お疲れ様でした。アフリカ地域の電気電子技術者育成を目的とするこの研修は実習を中心として実施してきました。研修員の皆さんはこのプログラムに終始一生懸命取り組んでいただきました。将来は近隣の諸国の先生方のために同じような研修を皆様方が計画され、実施することでアフリカ全体の技術レベルが向上していくことを期待しています。



### 1) 研修コース名

イラン:省エネルギー・再生可能エネルギー

### 2) 受入れ期間

平成28年8月23日～平成28年9月17日

### 3) コースリーダー

寺田 雄一

イラン研修員の皆さん、本当にお疲れ様でした。研修期間が短い中で、できるだけ現場を見る機会を増やした結果、とてもきついスケジュールになってしまいました。昼食が満足にとれなかったこともありましたが、研修を充実させるための結果だと思っただけだとありがたいです。今回の研修カリキュラムが帰国後の皆さんの活躍の大きな力になってくれることを切に願っております。



### 1) 研修コース名

コンポスト事業運営(B)

### 2) 受入れ期間

平成28年8月21日～平成28年9月22日

### 3) コースリーダー

城戸 浩三

北九州市での約4週間の研修や生活はいかがでしたか。皆さん熱心に研修に取り組みられている姿勢に感心しました。参加された国や地方自治体が、ごみ減量化のために、約60%を占める生ゴミのコンポスト化に積極的に取り組んでいることがわかりました。この研修の成果を、帰国後自分の国に応用して、ゴミ問題をより改善し、美しい健康な環境を保全できるように頑張ってください。研修員、みなさんのご健康とご活躍を祈っています。



### 1) 研修コース名

カザフスタン:産業部門の省エネルギー推進

### 2) 受入れ期間

平成28年8月21日～平成28年10月01日

### 3) コースリーダー

植山 高次

一昨年貴国を訪問し事情を把握の上コースを企画致しました。貴国の省エネへの取組も徐々に整っていますが、まだ不十分です。研修内容の全てに全員が満足するのは難しいですが、如何だったでしょうか？日本での研修が皆様の一生の思い出になり、皆様がこれをきっかけに飛躍することを望んでいます。



### 1) 研修コース名

先進国市場を対象にした輸出振興(C)

### 2) 受入れ期間

平成28年9月3日～平成28年10月8日

### 3) コースリーダー

井生 幸人

研修終了おめでとうございます。研修員全員が元気で、当初目標の通りに研修を終えられたことをうれしく思っています。今回の研修で学んだ手法や情報、皆で討議したことを、帰国後皆さんの業務に出来るだけ活かされることを期待しています。みなさんのご健康とご活躍を祈念しています。

## ハイフォン市で高濃度有機排水処理の技術セミナーを開催

### JICA海外展開支援事業～案件化調査～(株)ジェー・フィルズ殿の海外展開を支援

KITAでは(株)ジェー・フィルズ殿開発の酵素を活用した画期的な高濃度有機排水処理システムの海外展開を支援しています。本案件は2016年1月に「JICA中小企業海外展開支援事業～案件化調査」案件として採択を受けたもので、(株)ジェー・フィルズ殿の外部人材(コンサルタント)として北九州市と共に支援を行っています。

2016年9月から、ハイフォン市ナムハイ魚市場に試験装置を持ち込んで実排水での連続処理試験を実施、本処理技術の適合性を証明しました。

この結果をベースに10月27日に同市コンベンションセンターで技術セミナー(試験装置でのデモを含む)を開催、出席者はソン副市長をはじめ計画投資局、科学技術局、天然資源環境局、農業農村開発局、商工局、外務局などの主要行政機関、医科大学や海洋大学などの研究機関そして高濃度排水排出企業など90名を数え、質疑応答ではかなりヒートする場面もありました。セミナーの最後にはソン副市長から「当市の環境改善に貢献する技術である。市をあげて次のステップの実機での実証調査に協力する」との発言があり、その後直ちに副市長名で協力指示文書が関係先に送致されるなど本処理技術への高い関心と期待が強く感じられました。

技術協力部長 麻原 伴治、部長専門員 宮田 利勝

今後は次のステップとしてJICA普及実証事業の採択を得て、実機レベルで本処理技術の有用性を実証し、同市の環境改善に貢献するとともに(株)ジェー・フィルズ殿の海外ビジネス展開に繋げていく予定です。



ソン副市長の開会挨拶、右はJICAベトナム事務所の増田次長



排水処理システムのデモンストレーションの様子、テレビ局の取材もあった

## 北九州市・ハイフォン市の中小企業経営者交流を支援

### JICA草の根技術協力事業に続く新たな取り組みとしてスタート

北九州市は姉妹都市であるベトナム・ハイフォン市の中小企業経営者を迎えて、2016年10月11日から4日間「北九州市・ハイフォン市中小企業経営者交流」を実施、KITAはその支援を行いました。本交流は2011年4月から2016年3月まで北九州市とKITAで実施してきたJICA草の根技術協力事業に続く取り組みで、今年から4年間相互訪問の形で行われる予定です。

第1回目の今年はハイフォン市から製造業など8社11名(団長は商工局タム貿易課長)の来訪があり、北橋市長表敬訪問を皮切りに、座学「北九州市とハイフォン市企業に期待すること」、「人と組織の活性化について」などの受講、鋳物や鋼構造物製造工場の視察、そして本題の経営者交流と内容の濃い交流となりました。最終日には開催中だった「エコテクノ2016～地球環境ソリューション展/エネルギー先端技術展～」の視察を行い、先端技術にも触れてもらいました。

本題の経営者交流は、ハイフォン市側8社、北九州市側9社から事業内容などを紹介しあって交流が始まり、昼食時間も使った活発な交流となりました。この中でいくつかのビジネス交流のきっかけが生まれ、北九州市やKITAではこれらの交流の支援とフォローを行っています。

2017年はこちらからハイフォン市を訪れて交流が

技術協力部 部長専門員 宮田 利勝

行われます。今、同市はハノイへの高速道路の開通、大規模工業団地の集積、大型港湾施設の建設など大きく変容しています。皆様の積極的な参加をお待ちしております。



北橋市長を表敬訪問



経営者交流の様子、随所で交流の輪ができていた

## 北九州メンテナンス技術研究会の活動紹介

KME事務局 青井 澤海

北九州メンテナンス技術研究会(以下、KMEという)は、北九州国際技術協力協会(KITA)の一事業として、各社のメンテナンス技術を維持向上させることを目的とした活動を行っています。活動のための調査研究や研修およびメンテナンス分野における国際技術協力を携わる技術者の相互研鑽や交流を促進し、地域の活性化にも寄与しています。

当活動は、世界に誇るメンテナンス実務体験者や大学教授の知見者を講師とする実践教育の場として1981年に設立したユニークな研究会です。

## 1. KME発足の歴史

1981年、JICAによる「プラントメンテナンスコース」の企画・調査が開始され、高レベルの専門技術を有する北九州市が有力候補と認定されました。地元企業の協力の下、JICAメンテナンス技術コースが開設されました。その後、1982年、KITAの生産性協力センターに「メンテナンスグループ」が設置され、参加企業27社によるKMEが発足しました。さらに、KITAと九州工業大学による産学連携の意見交換回を重ねながらKMEのセミナー領域の拡大と更なる技術向上を図ってまいりました。

## 2. 主な活動内容

## 1) 予知保全研究部会

会員各社の実務担当者から募集した受講者の「年間固定メンバーによる研究会」です。

当研究部会は、設備診断技術の先駆者である地元専任講師によるテーマ講義や受講者

の体験事例発表等、講師と受講者の双方向型の研究会です。受講者のレベルアップを目的として運営しています。(年間6回開催)

## 2) KME技術セミナー

当セミナーは、メンテナンス業務遂行に必要とされる専門技術を学ぶ場であり、北九州地域以外(県外)からの参加者もおられます。学識者や実務経験者による体験を織り交せた講義でメンテナンス技術の向上を図る講座です。テーマは、①設備診断技術、②疲労強度、③腐食防食、④トライボロジー、⑤制御技術等、経験豊富な講師陣の講義は、実務者にとって欠かせない貴重な技術セミナーとなっています。

(年間8テーマ開催・受講者数:計約160名)

## 3) 講演会

主としてメンテナンス事業戦略や人材育成に関わるテーマの講演会を開催します。

最近では、北九州市とJICAとの連携によるメンテナンス技術の海外協力体制の紹介等、メンテナンスニーズは益々拡大しています。

(年1回開催・受講者数:約70名)

## 4. KMEホームページ

KITAの一事業としてKMEホームページをリニューアルしました。KMEの業務内容と活動状況を紹介しています。

<http://www.kita.or.jp/kme/index.html>



設備診断技術セミナー:機械編



油圧技術セミナー

## 国際親善報告

### 「北九州市立大学生との親善町歩き」

事務局 事務課長 高井 辰彦

平成28年9月3日に、アフリカ地域実践的電気・電子技術者育成コースの研修員を対象に、北九州市立大学のFIVA(\*1)メンバーとの交流イベント「小倉町歩き」を実施しました。台風の当たり年の中、この日も台風12号の九州接近の恐れがあり、開催が危ぶまれましたが、幸い雨に降られることはなく暑さの和らいだ中でのイベントになりました。

プログラムの前半は、研修員と学生とのお互いの国の紹介を含む自己紹介でした。学生のほとんどが交流初体験の1年生で、始めはぎこちなさがありました。北九州に親しんでもらいたい若者の気持ちを汲み、研修員が優しく接してくれたことで、次第に打ち解けた雰囲気になりました。

後半は、浴衣を着ての町歩きでした。着付けの先生に準備いただいた多様な浴衣から好きな物を選び、着付けをしてもらった自分の姿を見て、研修員の皆さんはとても晴れやかな表情でした。

FIVAメンバーとともに散策した旦過市場・魚町銀天街は、週末の買い物客で賑わっていましたが、浴衣姿の外国人は一際目立つ存在でした。お店に立ち寄った都度お店の方やお客さんが気さくに声をかけてくれ、研修員もリラックスして町の雰囲気を楽しんでいる様子でした。

半日のプログラムでしたが、研修員にとっては思い出に残る日本文化、北九州体験になったものと思います。FIVAの皆さん、着付け教室の先生方にこの場をお借りして感謝申し上げます。

なお、このイベントについては、北九州市立大学地域共生教育センター広報誌「Lab.Times」にも掲載され、学

内の学生・教職員に紹介されました。

\*1 FIVA

北九州市立大学 国際交流プロジェクト

「歩いて、遊んで、学んで。北九州で国際交流」をスローガンに、北九州を訪れる外国人の方々との交流を通して、日本文化や北九州の歴史を知ること、北九州に親しみを持ってもらえるようなイベントの企画・運営を行っています。



学生との対話



魚町銀天街にて

## 【助成金御礼】

◇平成28年9月、公益財団法人吉川育英会(理事長 吉川卓志様)より、KITAが研修員向けに作成・配付している英文生活情報誌「Let's Enjoy Kitakyushu!」への助成金として10万円を頂きました。ご厚意に心より感謝申し上げます。



「Let's Enjoy Kitakyushu!」

## KITA人事異動(2016年7月1日~2016年12月31日)

### 新 任

研修コースリーダー…………… 鳥飼 久敏(2016年 8月1日付)	研修部 部長専門員…………… 中島 康紀(2016年10月1日付)
技術協力部 KME事務局 …… 青井 澤海(2016年10月1日付)	研修コースリーダー…………… 笠間 昭夫(2016年12月1日付)
研修コースリーダー…………… 北村 隆(2016年12月1日付)	研修コースリーダー…………… 渡辺洋次郎(2016年12月8日付)

## 環境省の環境調査研修所の一部機能移転

専務理事・事務局長 藤原 直捷

平

平成26年9月に閣議決定されて設置された「まち・ひと・しごと創生本部」が本年3月22日に取りまとめた「政府関係機関移転基本方針」により、北九州市への環境省の環境調査研修所の一部機能移転が決定しました。

そして、10月24日に「環境調査研修所北九州研修事業事務局」が当KITAに設置され、開所行事等が同日16時から行われました。今年度は、3コースの研修が実施される計画で、KITAがこれらを受託し、各コースの設計、諸準備と開講期間中の円滑な進行を実行するコースリーダーの役割を担うことになりました。

10月24日の開所式はKITAが入居しているビルである国際村交流センターの2階で、環境省総合環境政策局長で環境調査研修所長を兼務される奥主局長はじめ福岡県の大曲副知事、北九州市の梅本副市長、そしてKITAの古野理事長が参列し、報道機関等関係者がカメラを構える中で環境省の担当官の司会のもと滞りなく行われました。

そして古野理事長は地元関係機関を代表して「このたびの環境調査研修所機能の一部をここ八幡東区平野の地に移転いただきまして、心から感謝申し上げます。このたびの環境調査研修所機能の一部移転は、これまでの当地での国内外研修活動の幅をさらに拡げ、国内外の環境問題の解決に向けた研修機能の、日本における一つの拠点形成するものだと確信しております。当法人におきましては、このたびの移転を契機といたしまして、環境調査研修所との協力関係を進め、研修事業をさらに充実していきたいと考えております。このたびの移転に当たりましては、環境省様のご英断と福岡県及び地元北九州市の皆様のご尽力に対しまして、地元機関を代表いたしまして、心から感謝申し上げます。」と挨拶し、コースの実行を受託する地元関係機関として御礼を述べるとともに、今後のコースの円滑な推進を約して決意を表明しました。

開所式を予定通りに終わると、4階のKITAの今回コースの事業推進を担う技術協力部執務室の前で「環境調査研修所北九州研修事業事務局」の看板除幕式を開所式で挨拶を述べられた4人の方々声が揃って行い、この日の開所式のすべてを滞りなく終わり、北九州市への環境省の環境調査研修所の一部機能移転行事が無事完了いたしました。



開所式で挨拶する古野理事長



「環境調査研修所北九州研修事業事務局」看板の除幕

KITA  
ニュース

No.46 (第46号)

2017年1月発行  
(1月・7月発行)

発行：公益財団法人北九州国際技術協力協会

編集発行人：事務局長 藤原 直捷

〒805-0062 北九州市八幡東区平野一丁目1番1号 国際村交流センター4階

TEL:093-662-7171 FAX:093-662-7177 E-mail:info@kita.or.jp

●右記Web site (KITAホームページ) には、KITAのご案内、活動、過去のKITAニュースなどを掲載していますのでご覧下さい。

KITA

検索

カチッ!

<http://www.kita.or.jp/>